

事業名	「山の日」啓発活動推進費	財務コード (事業)	439402
-----	--------------	---------------	--------

細事業名	やまなし「山の日」実行委員会事業費補助金
------	----------------------

担当部課室	森林環境 部 森林環境総務 課 企画 担当 (内線)	6076
-------	----------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(やまなし「山の日」実行委員会)		
事業の目的	誰(何)を対象に 県民等	その対象をどのような状態にして 山梨の山や森林の重要性に対する理解を深めている	結果、何に結びつけるのか 人間と自然との共生社会の構築
	○事業概要 やまなし「山の日」実行委員会が行う周知、啓発活動に対し、県として補助する。 ・補助先 やまなし「山の日」実行委員会 ・補助率 定額 ・事業内容 ①広報・啓発(イベントガイド、ポスターの作成、新聞広告など) ②山の日記念事業の実施 ・「森の教室」の実施(山の日記念トレッキング等イベントの実施) ・山梨百名山チャレンジ登山の実施(実行委員会・山梨県山岳連盟共催) ・山の博覧会の実施(実行委員会・日本山岳会山梨支部共催) ③山の日首都圏キャンペーンの実施		
事業の内容 ※主に 23年度			
根拠法令等	やまなし「山の日」実施要綱、やまなし「山の日」実行委員会補助金交付要綱		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度		23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	実績値	見込値	目標値	
活動指標	①広報・啓発 イベントガイド発行数	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に設定 データの出典等 実行委員会事業計画
	ポスター発行数	600枚	600枚	600枚	600枚	600枚	
	各種広告回数	3回	4回	4回	4回	4回	
	②記念事業の実施 ③首都圏キャンペーン	3行事 1回	3行事 1回	3行事 1回	3行事 1回	3行事 1回	
活動指標達成率 (実績値/目標値)			%				
成果指標	記念事業参加者数						成果指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に設定 データの出典等 実行委員会事業計画
	①森の教室	63人	80人	49人	80人	80人	
	②チャレンジ登山	52人	80人	42人	80人	80人	
	③山の博覧会 合計	402人 517人	450人 610人	390人 481人	450人 610人	450人 610人	
成果指標達成率 (実績値/目標値)			78.9%				
決算額、予算額	2,020		1,828		2,138	2,031	成果指標によらない成果
(千円) うち一財額	2,020		1,828		2,138	2,031	各種事業実施に際しては、「山の日宣言」の読み上げや、募集広告等への「山の日」の趣旨掲載、啓発グッズの配布により、参加者への啓発を図っている。その一環である記念事業の参加者アンケートでは、森林等について学習した満足感や山や森林の重要性を認識した旨のコメントを得ていることから、山梨の山や森林の重要性の理解に寄与している。
所要時間(直接分)	8 時間		8 時間		8 時間	8 時間	
所要時間(間接分)	540 時間		540 時間		540 時間	540 時間	
所要時間計	548 時間		548 時間		548 時間	548 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	1,108		1,108		1,108	1,108	

III これまでの事業の見直し・改善状況

H20から、「山の日」の全国展開を図る活動の一環として、首都圏住民を対象としたPR活動を実施。また、H23から、新聞(山梨日日新聞、山梨新報)、雑誌(山と渓谷社刊「山梨JOY」「ワンダフォーゲル」等)に加え、8月8日にラジオ(FMフジ)での広告を行い、より多様なチャンネルを通じた周知広報を行っている。

#### IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
	b	記念事業を3行事実施するとともに、イベントガイド及びポスターを県内各市町村、県内各学校(大学、短大、小中高等学校)、JR、道の駅、県内外観光案内所のほか、関連イベント等で配布した。また、公共広報誌に加え、各種広告として新聞(山梨日日新聞、山梨新報)、雑誌(ワンダーフォーゲル)への紙面広告掲載、ラジオスボット放送(FM-FUJI)によるメディア発信を実施するとともに、首都圏キャンペーンとして、JR八王子駅において、県産木材を用いた啓発グッズなどの配布を行った。これらにより、予定どおりの活動を実施できた。

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
c	b	記念事業「森の教室」(トレッキング・自然観察)と「山梨百名山チャレンジ登山」(登山)の内容の差別化や、参加者層の固定化・高齢化への対策の必要性について実行委員会総会等で指摘を受けていたため、H23から「森の教室」を、森林散策・木工体験を森林環境教育的な観点で組み合わせる内容にするとともに、より広い年齢層の参加を促すため、親子向けのコースを設けた。リピーターの中高年齢層の参加が減少したこと、親子層への周知が十分でなかったこと等により、参加者数は49人(定員80人)にとどまった。また、「チャレンジ登山」については、コースの山(南アルプス山系雨乞岳)の知名度の低さ等の原因により参加者数42人(定員80人)と、例年と比較し低調であったものの、参加者の満足度は高く(参加者アンケート平均4.6点/5.0満点)、森林等について学習した満足感や山や森林の重要性を認識した旨や継続的な実施を求めるコメントを得ており、意図した成果を上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

#### V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

##### 一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目
有	山や森林の重要性について理解を深める機会として参加者からは概ね好評を得ている一方で、認知度の低さ等により十分な参加者を集められていない現状を改善する必要がある。そのため、実行委員会へ、広報方法・手段の見直し、周知協力先の新規開拓等を行うよう指導する。また、記念事業の内容についても、より参加者ニーズを捉えた魅力のある内容とするよう改善を図らせる。	1

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

##### 二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

#### VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	記念事業をより効果的に実施し、山の日の普及に繋げていけるよう、実行委員会へ次のとおり指導する。 - 記念事業「森の教室」については、周知方法について見直しを行い、従来の公共機関・道の駅・金融機関・駅といった場所に加え、アウトドア専門店やショッピングモール等へもイベントガイド・ポスターを設置することで、より広い層への周知を図る。 - 「山梨百名山チャレンジ登山」については、参加者アンケートを通して得た山・コース等に関するニーズをコース設定に活かし、参加者増につなげる。更に、各種メディア(観光推進機構ホームページ、ラジオ、雑誌等)を活用して、事業の周知を図る。 - また、特にH25年度は、国民文化祭と連動して事業全体の広報を行うことにより山の日の認知度の向上を図る。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。